

さやえんどう

農薬取締法上、「さやえんどう」は「実えんどう」や「えんどうまめ」とは別の作物である。
(実えんどうの項 参照)

「さやえんどう」には、「さやえんどう」「豆類（未成熟）」「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。

————— 発病・加害時期
===== 発病・加害最盛期

| 作型・病害虫名 | | 月 | | | | | | | | | | | |
|---------------|----|---|---|-------|-------|---|----|---|---|---|----|-------|----|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 秋 | まき | | | | | | 収穫 | | | | | ● ● | |
| 苗立枯病(リゾクトニア菌) | | | | | | | | | | | | ===== | |
| うどんこ病 | | | | ===== | ===== | | | | | | | | |
| 褐斑病 | | | | ===== | ===== | | | | | | | | |
| アブラムシ類 | | | | ===== | ===== | | | | | | | | — |
| ナモグリバエ | | | | ===== | ===== | | | | | | | | — |

苗立枯病

留意事項

- 1 バスアミド微粒剤、ガスタード微粒剤は、リゾクトニア菌に有効である。

防除方法

- 1 連作を避ける。
 - 2 本ぼを土壤消毒する。(XⅢ土壤消毒 2土壤病害虫等を対象とした薬剤による土壤消毒(4) 参照)
- ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 <—>
【リゾクトニア菌 20~30kg/10a 所定量を均一に散布して土壤と混和する
は種または定植21日前/1回】

うどんこ病

留意事項

- 1 QoI剤<<1 1>>、SDHI剤<<7>>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。
- 2 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 密植を避け、通風を良くする。
- 2 窒素質肥料の過用を避ける。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 3 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [サンヨール](#) <—> 【500倍 前日／4回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [トリフミン水和剤](#) <3> 【3000～5000倍 前日／5回】
 - ・ [パレード20フロアブル](#) <<7>> 【豆類（未成熟） 2000～4000倍 前日／3回】
 - ・ [シグナムWDG](#) <<7>> <<11>> 【1500～2000倍 前日／2回】
 - ・ [サンクリスタル乳剤](#) <—>
 - 【野菜類（除なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎく） 300～600倍 前日／—】

褐斑病

留意事項

- 1 QoI剤<<11>>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 被害株は早めに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 2 密植を避け、通風を良くする。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [トップジンM水和剤](#) <1> 【2000倍 前日／3回】
 - ・ [スクレアフロアブル](#) <<11>> 【2000倍 前日／3回】

ウイルス病

留意事項

- 1 種子、アブラムシ類により伝染する。
- 2 生育初期にアブラムシ類の防除に努める。

防除方法

- 1 健全種子を用いる。
- 2 子葉展開時から有翅アブラムシ類の防除に努める。【アブラムシ類の項 参照】
- 3 除草を徹底する。

アブラムシ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 2 スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤は同一成分ジノテフランを含み、総使用回数は3回以内（但し、株元散布は1回以内、散布は2回以内）。

防除方法

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) < 4 A > 【2000倍 前日/2回】
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 < 4 A > 【4000倍 前日/3回】
 - ・ [マラソン乳剤](#) < 1 B > 【豆類(未成熟) 1000~3000倍 7日/3回】
 - ・ [ウララDF](#) < 2 9 > 【2000~4000倍 前日/2回】

ナモグリバエ

留意事項

- 1 防除開始適期は3月上旬である。
- 2 スタークル粒剤、アルバリン粒剤は同一成分ジノテフランを含み、総使用回数は3回以内（但し、株元散布は1回以内、散布は2回以内）。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。
 - ・ [スタークル粒剤](#)、[アルバリン粒剤](#) < 4 A >
【ハモグリバエ類 9kg/10a 株元散布 生育期（収穫開始14日前）/1回】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を10日間隔で2~3回散布する。
 - ・ [アディオン乳剤](#) < 3 A > 【3000倍 前日/3回】
 - ・ [アフーム乳剤](#) < 6 >
【豆類（未成熟 除さやいんげん） ハモグリバエ類 2000倍 3日/2回】
 - ・ [プレバソフロアブル5](#) < 2 8 > 【ハモグリバエ類 2000倍 前日/3回】
 - ・ [スピノエース顆粒水和剤](#) < 5 > 【ハモグリバエ類 5000倍 前日/3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。